

令和5年度「伝統工芸の匠」プロフィール

1 産 地 とやま土人形

2 氏 名 なかに まゆみ 中谷 真由美 氏

3 勤務先 とやま土人形伝承会（富山市安養坊 1118-1）

4 略 歴 等

- ・ 平成5年 石黒共子氏（令和元年度 伝統工芸の匠認定）に師事
土人形を代々継承してきた渡辺家 故渡辺信秀氏の助言も受け技術を修得
- ・ 平成6年 「とやま土人形伝承会」起業時の中心メンバーの一人
- ・ 平成7年4月～平成8年3月 とやま土人形伝承会会長
- ・ 平成18年 富山市長表彰（土人形伝承会として）
- ・ 平成19年4月～平成20年3月 とやま土人形伝承会会長
- ・ 平成19年 年賀切手（亥年）に採用（中心メンバーとして制作）
- ・ 平成26年4月～平成27年3月 とやま土人形伝承会会長
- ・ 平成29年 年賀切手（戌年）に採用（中心メンバーとして制作）
- ・ 粘土による原型の制作をはじめ、伝統技法に基づく型取り、型込め、絵付法等の優れた技術力を有し、31年以上に亘り製作。江戸時代から伝わる型を使用した伝統的なものだけではなく、新商品の開発も精力的に取り組んでいる。
- ・ 制作工程、制作物に応じた技術、知識が豊富であり、技術指導に取り組んでいる。

5 とやま土人形の概要

嘉永年間（1848年～54年）富山十代藩主前田利保が尾張の陶工、加藤家の陶器職人であった広瀬秀信を富山に呼び、千歳御殿に窯を築いて千歳窯を作り、次に、その子・安次郎が陶器作りのかたわら天神がきんを焼いて献上したのがとやま土人形の始まり。

当時、城下には土人形屋は数軒あったが、広瀬家より技法を学んだ渡辺家（明治3〈1970〉年創業）だけが家業として伝統を守っていた。渡辺家の3代目信秀氏の後継者がいなかったため、富山市では、昭和58年より渡辺信秀氏を講師として受講生を募り「とやま土人形伝承会」を結成。その後、渡辺氏が、受け継がれてきた型・技法全てを「とやま土人形伝承会」に継承し現在活動。

型に入れ800度で素焼きしたものに絵具で彩色をした人形は、素朴な味わいがあり、縁起物や魔除け、子供の玩具として親しまれている。天神信仰の強い富山では、学問の神様である天神様や招き猫などの縁起物が多く作られ、干支や祭礼に関するものなど郷土色豊かな土人形が作られている。

土人形の型は古くは明治・大正時代からのものを使用。伝統の人形を守りながらも、富山らしさを更に追求し、おわら風の盆など、富山に根付く文化を人形に表現し、新しい富山の郷土色を創出している。

【中谷氏の作品】

